盛商新聞

第164号
発行日
2021年２月25日

編集兼発行
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮２丁目35-1
県立盛岡商業高等学校
新聞編集委員会

印刷所
杜陵高速印刷株式会社

特集1　盛商祭2020
Challenge～私たちが今できること～

新たな挑戦

令和二年十月十日（土）、十一日（日）、第六十三回盛商祭が開催された。新型コロナウィルスの影響により制限された中で、数々の課題を乗り越え、開催の喜びを分かち合うことができた。

運営の中心となった盛商祭実行委員長三E一笠旭輝さんに話を聞くと、「今年は新型コロナウィルス感染予防対策のもと、密にならないようにすることや、アルコール消毒の徹底を心がけた。そのため、来場者は生徒の同居人と範囲を狭め、校内でのクラスターが発生しないよう工夫をすることで、無事終了することができた。例年と同様の開催には至らなかったが、生徒それぞれで考え、工夫することによって絆を深め合うことができたと実感した。開催にあたって苦労も多かったが、とても良い経験になった。」と振り返っていた。

今年は、一学年による盛商レストラン運営の代替としての「さんさ踊り発表」、二学年の「盛商マーケットのカタログ販売」など、例年とは異なる盛商祭となった。しかし、今できることに精一杯取り組み、全校生徒が一丸となって盛商祭を盛り上げることができた。今後も楽しみ、楽しませる活気あふれる盛商祭を引き継いでいってほしい。

（三C　細野　鈴・三澤　優渚）

指先まで心をこめた接客

響き渡る吹奏楽部の音色

大盛況！商業研究部の盛商どら焼き販売

恒例の書道パフォーマンス

変わらないもの

生徒会長　二C　関　柊葵

今年度は新型コロナウィルスが猛威を振るい、私たちの生活に大きな変化をもたらしました。盛商でも、二大行事である体育祭、盛商祭の縮小や、サッカー・野球大会の全校応援中止など、様々な場面で影響を受けました。

生徒会では、時代の変化を必要とする今こそ、限られた枠の中で出来ることに全力を尽くすことができる学校を目指し、新たな活動を行っていきたいです。例年通りには進まず、苦しい活動になってしまうと思いますが、今まで先輩が積み上げ、引き継いできた伝統や文化を崩すことなく、更に良いものにできるように一年間務めていきます。

あっという間に今年度も残りわずかとなりました。新年度に向けて、三年生の皆さんはそれぞれの進路に向かっての準備になると思います。一、二年生は進級の準備をしていきましょう。また、改めて学校生活における目標を立て、自分の目指す未来を明確にし、それに向かって努力のできる有意義な期間となるよう頑張っていきましょう。

三学年　模擬店

今年度は、新型コロナウィルスの影響で、模擬店は開催不可能かと思われていたが、生徒の皆さんの理解と協力により、無事行うことができた。今回、開催することができたのは、盛商祭実行委員の方々の力、そして、学校全体で団結した結果といえるだろう。商品の手配や、衛生面での苦労があったが、その中でも、最大限に楽しみ、三年生にとって思い出に残るものとなった。

三学年主任の熊谷知暁先生は、「制限がある中、今できる精一杯の準備をし、立派に模擬店を開店でき、とても素晴らしい接客だった。」と絶賛。また、「来年度も今年度と同じような開催形態になるのではと予想されるので、今年度良かった点が来年以降も活かされることを期待する。」と語った。

（三F　佐藤　貢介・山崎　春輝）

さすがのチームワーク

大好評だった焼き鳥

二学年　盛商マーケット

盛商祭では、例年二学年は第一体育館にて「盛商マーケット」を行っている。しかし、今年度は新型コロナウィルス感染防止のため、第一体育館での開催を中止。「カタログ販売」という新しい形に挑戦した。

盛商祭実行委員の二A白石こころさんは、「売上高と販売した商品の数が合わず苦労したが、お客様への商品引き渡しの際には心を込めて接客することや、声の大きさに気をつけた。」と、振り返る。

二学年主任の中元俊司先生は、「例年と違うところはあったが、生徒達の実践活動ができてよかった。カタログの内容やデザイン、それぞれの売り場を自分達で工夫してクォリティの高いものを作り上げてくれて嬉しい。今回見つかった課題を今後の学校生活で解決していってほしい。」と、思いを語った。私たち生徒は、その期待に応えていきたいと強く感じた。

（二A　昆　和輝・渡辺　陸斗）

各教室にて商品の受け渡し

手作りの予約販売用カタログ

一学年　さんさ踊り発表

新型コロナウィルス感染予防対策により、今年度は、例年一学年が担当していた盛商レストランを中止、一学年全員による「さんさ踊り発表」を実施した。

盛商さんさ実行委員の一D菅野美翔さんは、「新型コロナウィルスの影響で今年度は、さんさ甲子園は無くなってしまったが、盛商祭という場でさんさ踊りを披露することができて良かった。ステージでの動き方を覚えることに苦労したが、さんさ委員として、一つひとつの動きを丁寧に意識して踊った。」と語った。

一学年主任の阿部正史先生は、「短い練習期間ではあったが、全体がよく踊れていて、来場された保護者の方々にも喜んでいただくことができた。また、さんさ踊り発表が成功したのも、踊りを指導して下さった大宮さんさ踊り保存会の宮野さん、着付けをお手伝いいただいた保護者の方々の協力があったからこそ。」と感謝の思いを語った。

（一D　吉田　愛咲・利府　芽生）

全員着付けをマスター

4チームに分けて時間差で発表

商業研究部　珠算・電卓競技大会（電卓の部）団体五連覇・個人W優勝！

十月に行われた岩手県高等学校珠算・電卓競技大会電卓の部で商業研究部が団体で見事優勝、個人で二D太田志穂さんが優勝した。

部長の二D鳴海友香さんは、「部員一同、団体優勝という一つの目標に向けて一生懸命頑張った。」と語った。その一方で、今年は新型コロナウィルスの影響で例年と環境が変わり、活動時間が限られたことで苦労したとのことである。

個人優勝した太田さんは、「個人優勝できてとても嬉しかった。」と喜びを語った。今後の大会も団体・個人優勝を目指してこれまで以上に努力をしていきたいと、新たな目標に向かって活動しており、今後も商研部の活躍から目が離せない。

（二D　佐藤　拓海・田村阿久亜）

盛商マートin盛岡駅（3年生）・イオンモール盛岡南（2年生）

九月二十五日（金）から盛岡駅で二日間、十月一日（木）からイオンモール盛岡南で五日間、盛商マートが行われた。流通ビジネス科の三年生が盛岡駅、二年生がイオンモール盛岡南を担当し、それぞれ大盛況であった。

三年生が担当した盛商マーケットin盛岡駅は、昨年度の三月に行われる予定であったが、新型コロナウィルスの影響で中止。先生方や盛岡駅の方々の協力を経て、九月に延期開催された。十分な来客数がいるかという不安の中、試食の代わりに商品の蓋を開けて中身を見せることで宣伝を行ったり、こまめな消毒、レジ前に感染予防フィルムの設置など感染対策の徹底に努めた。

三B千葉みゆさんは、「三年生最後の盛商マートを行うことができ、協力して下さった方々に感謝している。一・二年生の皆さんは、自分の経験を積むため、積極的に盛商マートに参加してほしい。」と語る。三年生の盛商マートを担当している桃沢和歌先生は、「三年生は、就職活動直前にも関わらず、自主的に活動を行い、これまでの経験を活かすことができていた。」と、笑顔を見せた。伝統ある盛商マートを、これからも発展させていってほしい。

（三B　音川　梨乃・外久保菜々美）

笑顔で「いらっしゃいませ！」

盛商マートin盛岡駅（3年生）

イオンモール盛岡南に初出店（2年生）

全国サッカー選手権岩手県大会準決勝～感謝を胸に～

十一月一日（日）、第九十九回全国高等学校サッカー選手権岩手県大会の準決勝がいわぎんスタジアムで行われた。

対戦相手は遠野高校。前半、後半を両者無得点で迎えたPK戦は、二対四で遠野高校が勝利し、無念の敗退となった。今回の大会は、新型コロナウィルスの影響により開催が危ぶまれていたが、選手一人ひとりが良いパフォーマンスをすることができたという。

主将の三A村上絢太さんは、「三年生にとって最後の大会を開催して下さった高校サッカー関係者の方々に、とても感謝している。各々のプレーを結果につなげることができなかったのは残念だが、今後のカテゴリーに向けてそれぞれ頑張っていきたい。」と語った。

苦しい一年となったが、努力を惜しまない盛商サッカー部は、たくさんの人々に勇気を与えてくれた。来年度、高総体、選手権ともに優勝を奪取し、再び全国での活躍に期待したい。

（三A　岡田　すず・佐藤　優菜）

ソーシャルディスタンスで応援

陸上部　日報駅伝～つないだ想い～

十一月二十三日（月）、今年もたくさんの声援の中、東北銀行北上支店前から東北銀行本店までタスキをつなぎ無事ゴールした盛商陸上部駅伝チーム。最終走者の三C齋藤勇さんは、「一年生の時から三年間、駅伝に参加し、やりきることの大切さや達成感を味わうことができた。後輩の皆さんにも積極的に参加して、次の世代へと引き継いでいってほしい。」と語った。来年も完走し、多くの走者が自己ベストを更新できることを期待し、応援を続けていきたい。

（一C　田貝　夏澄・髙橋　美姫）

同窓会紫波支部日報駅伝応援

ゴールする3D齋藤勇さん

ワープロ部　新人ワープロ競技大会入賞

令和二年度岩手県高等学校新人ワープロ競技大会が、十月三日（土）に本校にて開催された。大会には、本校ワープロ部員を含めて七十六名が参加。一E川村政汰さんが、初出場で個人五位入賞という快挙を果たした。

大会参加の印象について川村さんは、「序盤は、普段自分が学校で練習しているタイピングスピードよりも他の参加者のスピードが速く感じられ、不安になった。」という。しかし、競技中は自分だけの空間だと思うことで気持ちを持ち直し、落ち着くことができたそうだ。

今後の目標について聞くと、タイピング精度を更に向上させるとのこと。「普段から緊張感を持って練習に取り組むことを大切にし、記録を伸ばしていきたい。」と意気込みを語ってくれた。

（一E　菅野　華・佐藤　爽）

1E　川村政汰さん

コラム　士魂

▼今年度は、新型コロナウィルスの影響により、多くの行事や大会が中止となった。そんな中、後期は感染症対策を取りながら、盛商祭や盛商マートなどを行うことができた。この状況だからこそ見ることができる盛商生の活躍もあっただろう。▼後期は、三年生にとって進路活動が大きな山となった。進路活動を行う上でも新型コロナウィルスの影響は大きいものだった。求人の数が減少したり、ウェブ面接が取り入れられたりと、例年とは異なることもあり、臨機応変な対応が求められる場面も数多くあった。今号では、進路活動についても取り上げている。また、三年生の進路活動への思いも掲載した。アンケートに協力して下さった三年生の皆さんには感謝したい。一・二年生は是非、今号を来年度からの進路活動の参考にしてほしい。コロナ禍での三年生の頑張りを「盛商新聞一六四号」として形に残せたことを嬉しく思う。▼今号は、盛商新聞一六三号に引き続き「考える新聞」をテーマに制作した。今年度のまとめとなるよう、新聞編集委員全員が、自分の原稿に責任を持ち、よりよい記事にするために取り組んだ。そして、取材させていただいた方々の思いを引き出すことができたと感じている。考えることは、自分を高め、視野を広げることにつながる。今号を通して、家族や友人と「考える」ということについて共有してほしい。▼今年度を振り返ると、コロナ禍だからこその盛商生の活躍もたくさんあった。盛商祭では各クラス、委員会の取り組みの結果、コロナ対策が万全の状態だったと思う。この状況はいつまで続くか分からないが、一・二年生は新入生を迎えて、三年生は新たな場所でも、盛商生としての良さを発揮し続けてほしい。

（三D　荒川　瞳愛）

特集2　進路白書 ～3年生の奮闘～

今年度は、新型コロナウィルスの流行により、進路活動にも多くの影響が出た。コロナ禍での進路活動の奮闘について、進路指導部長の高橋広幸先生に話を聞くとともに、三年生全員を対象にアンケートを実施した。

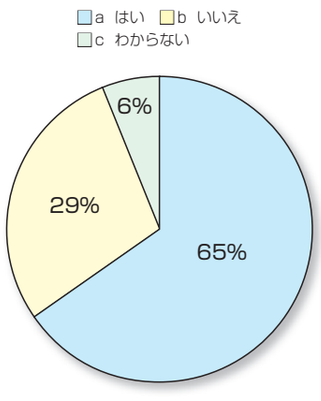
進路指導部長の高橋広幸先生はコロナ禍での進路活動について、「特に希望の多かった事務職の求人が、前年度に比べて約半分となり、希望者をバランスよく調整することが大変だった。」と振り返る。更に、「新型コロナウィルスの影響で、例年通りの進路活動はできなかったが、できることを可能な範囲で行うように努めてきた。この状況は、来年度も続くのではないか。」と予想する。今、一・二年生がしておくべきことについて聞くと、「一つでも多くの商業に関する資格を取ることが望まれる。その他、部活動などの経験は、企業や上級学校から高く評価される為、積極的に取り組み、早い時期から準備しておくべき。今、何をすればよいのか分からないという人は、一人で悩まず先生方に相談してほしい。」と、一・二年生にアドバイスを下さった。

三年生全員に実施したアンケート結果を見ると、Q1では、やはり進路活動に不安を感じている人が六十五パーセントと多く見られる。Q3を見ると、途中で進路変更をした生徒は二十二%であり、その中には高橋先生の話に出てきた事務職の求人激減の影響を受けた生徒達も含まれている。Q4のコロナ禍の進路活動で大変だったことについては、「求人の減少」と「進路先の情報を得る」という回答がそれぞれ約三十%と高い。Q5の進路活動を通して大切だと思ったことについては「早めの進路対策」と答えている生徒が三十七%と格段に高く、高橋広幸先生のアドバイスにある「早い時期からの準備」を強く裏付けている。

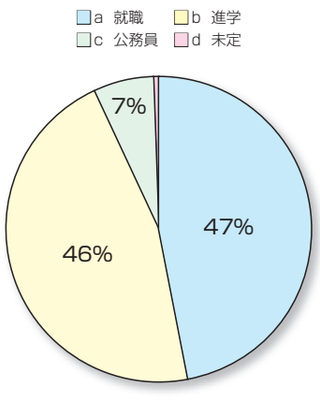
コロナ禍の進路活動は、思うようにいかないことが多々あった。しかし、この苦難の状況に奮闘して進路実現を果たした三年生は、今後どのような困難があっても乗り越えられるはずだ。

（三D　小澤　美空・佐藤　美友）

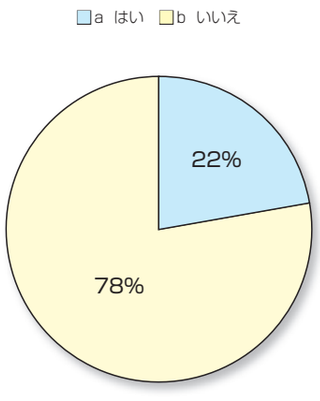
Q1 コロナウィルスの中での進路活動に不安を感じましたか？



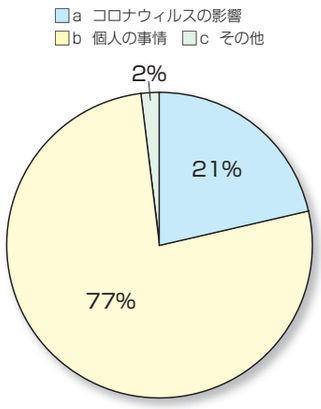
Q2 選択した進路は何ですか？



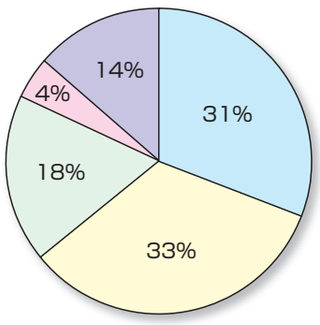
Q3 ①進路活動中に進路変更をしましたか？



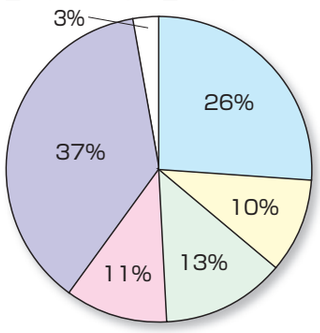
Q3 ② ①で「はい」と答えた理由は何ですか？



Q4 コロナ禍の進路活動で大変だったことは何ですか？



Q5 進路活動を通して大切だと思ったことは？



健康を考える ～保健室から見る盛商生～

養護教諭　茶畑悦子先生

現在、世界中で流行している新型コロナウィルス。それに加えて、インフルエンザや風邪が流行する冬の季節となった。例年以上に気をつけて感染対策を行う盛商生が多く見られる中で、健康のプロフェッショナルとも言える養護教諭の目から盛商生は、どのように見えているのだろうか。今回、養護教諭の茶畑悦子先生にお話を伺った。

まず、保健室から見た盛商生の健康について聞くと、「盛商生は歯が健康だ。」との意外な返答。本校は、岩手県歯科医師会主催の学校歯科医保健優良校表彰において、四年連続で優秀校として表彰されている。「身体の健康は口から」と言われている程、歯の健康は大切なものだとおっしゃっていた。そんな盛商生であれば、今の大変な状況下においても健康に過ごすことができるのではないだろうか。

次に、感染症予防について伺った。大切なこと、特に気をつけるべきことについて聞くと、「まずは三密を避けることが一番大切だ。」という回答をいただいた。それに加えて「普段からマスクの着用や手洗いうがいを忘れないことも気をつけてほしい。」とのことだった。また、予防における盛商生の課題については、個人の意識に差があることだとおっしゃっていた。昼食時や友人との会話など、ついソーシャルディスタンスを忘れてしまうこともある。個人努力は難しいことだが、自分や周りの命を守るためだと思って、より一層気をつける必要があると感じた。

体調を崩さないために大切なことは、日々の生活の中にある。中々終わりが見えない苦しい期間が続いているが、消毒や体温・体調の記録などを徹底し、健康に過ごしていきたい。また、自分だけではなく、他人の体調にも気を配り、「広げない」感染予防も大切だ。一人ひとりが意識し、盛商全体の健康につなげていきたい。

（三E　面来　穂伽・吉田　海優）

体験談 ～後輩へのアドバイス～

◆就職◆

三年E組　田代　叶羽

私がコロナ禍で就職難と言われている中、就職を選択したのは、進路指導部長の高橋広幸先生から「情報系なら盛岡商業高校の名前を生かした方がよい。」と、助言していただいたからである。

実際の就職試験では、筆記は例年通りであったが、面接はリモート面接形式で昨年度と大きく変わった。リモート面接は、盛岡支店で行われた。机上にはパソコンが置いてあり、本社の社長、盛岡支店長、私の三者での面接であった。途中、パソコンのラグや、イヤホンから質問が聞きづらかったりと、緊張したが、学校での練習を思い出して落ち着いて回答できた。

来年度以降もコロナウィルスの影響で試験内容が変わる企業もあると思うので、柔軟に対応できる準備が必要である。

一・二年生は、三年生の前期中間考査までに、できるだけ多くの資格取得と評定を上げていき、早い時期に自分の就職したい業界、企業を決め、目標を持って進路活動を行ってほしいと思う。

◆進学◆

三年D組　藤村　晴菜

私はこの度、志望する四年制大学を総合型選抜で受験し、合格通知をいただくことができました。

私が受験した総合型選抜は、一次試験のグループディスカッションと面接から始まり、二次試験で小論文を行うというものでした。今年は新型コロナウィルス感染症の影響により、大学のオープンキャンパスがオンラインで、情報収集に苦労しました。しかし、二年生の頃にオープンキャンパスに行っていたことで、充実した内容を書くことができました。これから大学進学を目指す後輩の皆さんには、進路が決まり次第、何事も早めに行動することをお勧めします。また、どのような進路においても、高い評定を維持し、より多くの資格を取得しておくと安心して進路活動に打ち込める為、考査期間の学習や、日々の授業に力を入れてほしいと思います。

これからも先が読めない日々が続きますが、進路実現に向けて頑張って下さい。皆さんが納得する道に進めるように応援しています。

「先輩と語る会」で後輩の質問に答える3年生

後輩へ進路アドバイス

始動☆新生徒会

十月二十七日（火）、令和二年度生徒会役員選挙が行われ、新生徒会体制が始動した。

新生徒会の活動に向けて、生徒会長の二C関柊葵さんは、「盛商の土台作りを実現するために、先に問題や課題を発見し、全校に発信できるような生徒会を目指す。生徒のために活動をしていきたい。」と語った。副会長の二C齋藤華乃さんは、「昨年度からの行事運営を通して課題点が可視化できたので、感染予防をして楽しく企画を行いたい。コロナ禍で盛商ブランドの価値を再確認できたので、挨拶などに気を配り、より質の高い盛商ブランドを目指したい。」と意気込みを語った。

今後は、リーダー修会も予定されている。理想の生徒会に近づけるように全力で挑みたいと一致団結している新生徒会に注目していきたい。

（二C　吉田妃羅々・柚木　彩未）

写真部　令和2年度 岩手県教育表彰受賞！

十月二十八日（水）、岩手県民会館にて、盛商写真部は学校教育分野で顕著に活躍した団体として「令和二年度岩手県教育表彰」を受賞した。

受賞について、部長の二B葛城友季美さんは、「先輩たちが積み重ねてきた功績、今の自分たちの努力を評価していただけたことが嬉しい。」と、喜びを語った。また、今回の受賞を喜ぶとともに、「これからも、よりよい写真を撮るために、多くのシャッターを切りたい。」と、新たな作品作りに意気込んでいる。今後の写真部の活躍に更に期待したい。

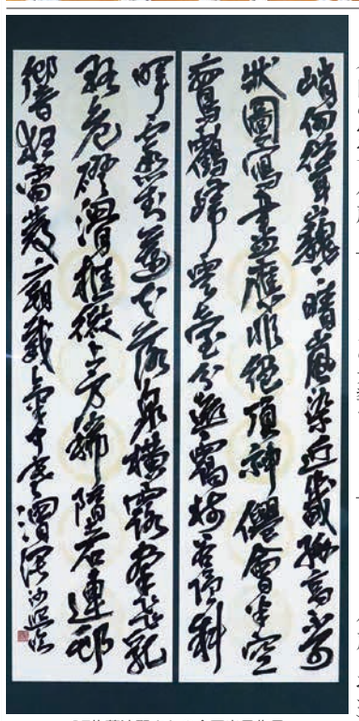
（一B　旭田　臣成・池田悠海斗）

岩手県教育長より表彰を受ける葛城部長

書道部　高文祭書道部門 優秀賞！二年連続全国へ

十一月に岩手県高等学校総合文化祭書道部門で二F佐藤沙熙さんが優秀賞を受賞した。更に、全国高等学校総合文化祭に出品する五点に選出された。佐藤さんは前回に続き、二年連続で出品となる。今回の受賞に佐藤さんは「前年度も県代表となって全国へ出品できたことがプレッシャーとなり、危機感を感じていたが、周りの方々に支えていただき受賞することができた。また、前回の〝こうち総文〟ではコロナウィルスの影響でウェブでの開催となってしまった。来年度の〝わかやま総文〟では、通常通りの開催で他校の生徒と交流を深め、より良い作品を作ることができるようにしたい。」と語っていた。

（二F赤川　涼真・佐藤　壮河）


2F佐藤沙熙さんの全国出品作品

3年生 THE MORISHOランキング

Q1 盛商のお気に入りスポットは？

1位　教室　友達や先生との思い出がつまった教室が堂々の一位。特に窓側が大人気。

2位　第一体育館　体育の授業や部活動で充実した汗を流した思い出の第一体育館。

3位　コミュニティホール　交流の場でもあるコミュニティホールは、盛商生の癒やしの空間。

Q2 盛商の昼休みといえばコレ！お気に入りの福田パンの味は？

1位　不動の人気　あんバター

2位　酸味と甘さが絶妙　ジャムバター

3位　女子に大人気　スイートポテト

いつも笑顔で迎えてくれる福田パンの佐々木さん

シリーズ この部が熱い!! Vol.15

柔道部

柔道部は、三名の三年生が引退し、男子五名、女子二名の計七名で活動を行っている。普段の主な練習は、寝技や立ち技の乱取りなどの技術練習や筋トレを行っている。また、柔道は身体だけではなく心も鍛える競技であり、日々、心身の鍛練や礼儀作法に努めている。

心・技・体を鍛練

部長の二F佐藤優光さんは、「大会で相手を投げきれるように、何度も投げ込みをして自分の技を磨いている。今後は、技に入るまでの形の練習を課題に、楽しみながら練習をしていきたい。」と意気込みを語ってくれた。

新型コロナウィルスの影響もあり、思うように練習ができない中、各種大会への上位入賞を目標に日々、自分の心身と向き合う柔道部。今後の活躍が楽しみである。

（一A　石川　史奈・松尾　一美）

クローズアップ・チャイティー　第10回

澤頭副校長先生は英語の先生であり、高校時代は英語と地理が好きな生徒だったそうだ。週末には北上川の遊歩道をジョギングする健康的な先生である。盛商生に向けて、「毎日、何か必ず一つは覚えることを心がけている。是非、皆さんにも毎日何か一つ覚え、知識を増やしてほしい。」とエールを送って下さった。

小笠原典子先生も英語の先生であり、高校時代から英語は好きな教科だったそうだ。小笠原先生の趣味は、散歩、読書、庭いじりと、やはり健康的かつ文化的な先生である。「授業で英語を沢山使って、皆で英語を話そう！」とメッセージを下さった。

澤頭副校長先生、小笠原先生は、どちらも外に出て動く健康的な生活を送り、高校時代から英語が大好きだという共通点があった。私たちも見習い、好きな教科を見つけて将来に役立てたい。

（二B　青刈　正人・曽根田和史）

澤頭勝典副校長先生

小笠原典子先生

今年度、盛岡商業高校へ赴任した澤頭勝典副校長と小笠原典子先生をクローズアップしたい。

事務室の窓 Vol.10

皆さんは、白衣を着たお二人の事務員の方々が毎日、学校中を磨いてくれている姿を目にしていることだろう。今回、学校内の消毒活動を中心に、私たち生徒の安全を守って下さっている嶋野由季子さんと大西理美子さんを紹介したい。

嶋野さんの趣味は、映画鑑賞だという。また、最近は、漫画「鬼滅の刃」にハマっており、話題の映画に行こうか迷っているということだ。

大西さんは、ドラえもんが大好きで、「のび太の南極カチコチ大冒険」がお気に入りとのこと。もし、秘密道具が使えるなら「もしもボックス」が使いたいそうである。

毎日、広い校内中を消毒し、生徒の触る頻度の高い部分は一日に何度も消毒するということは、終わりがなく大変な作業だ。私たちの安全のために作業して下さるお二人に会った時は、是非、挨拶をして感謝の気持ちを伝えてほしい。

（一F　浅沼　颯斗・山影　優斗）

左から嶋野由季子さん・大西理美子さん